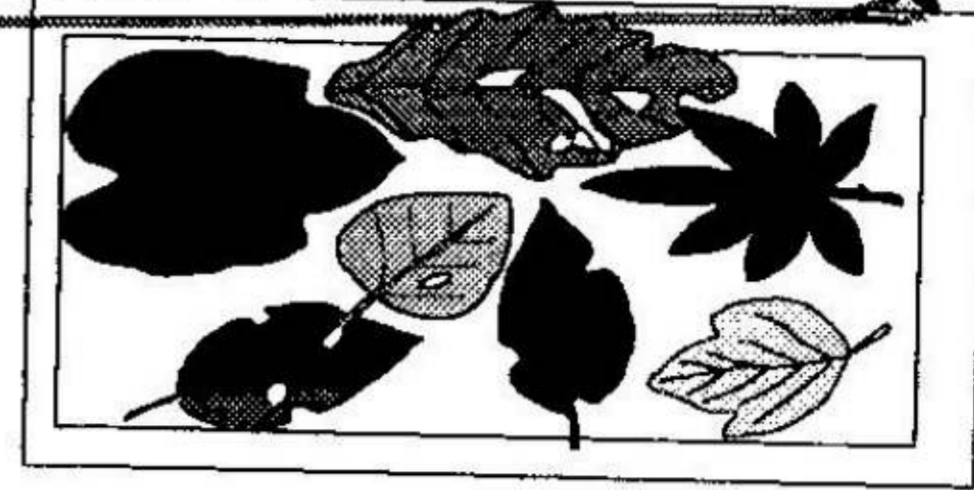


土浦平和の会

ニュースNO・98 2000年11月-3

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122



2000年 平和の旅 その4 横須賀・横浜編

茨城コープクックの会 堀江 正子

16日の朝の横須賀、米軍基地施設に広大な土地を占められているためか、町の営みが色褪せて感じます。人々の暮らしは、丘の上へと追いやられて、圧迫感があります。この町に整然とある基地。しかし基地の中の働きには、有事、平時の差はないといわれます。何が日々行われているのでしょうか。太平洋戦争時においても、日本軍の動きは国民にもわかりませんでした。

今回の平和の旅で、日本軍が掘らせた地下壕を見学し、とても理不尽な想いで一杯になりました。軍隊にとって、最も守らなければならなかったのは、国民の生命や生活ではなく・・・というより、もとより犠牲にすべきと考えていたのでしょうか。松代大本営設営のむごさに言葉を失いますが、日吉の地下壕の作業も、一番危険な場所は朝鮮の方々が強いられたということ、多くの方々が血を流されたということ。人間が人間を、人間として扱わない忌まわしさ。そして現在、何事もなかったように、個人の敷地となっているという現実。国の強行な命令で多くの方々がぎせいになったという真実。この白々しさは一体なんだろう・・・。私の中ではとても解決できない理不尽さです。ミッドウェイ海戦ですでに、日本軍の幹部は負けると予想していたという。

日吉の地下壕司令部が、安全な環境を保障されていた1945年5月。沖縄では首里の激戦で、日本軍は殆どの兵力を失います。シュガーロフでは、あまりのむごさに精神に異常を来す米兵が数多くでたということ。それでも日本軍は降伏勧告を拒み続け、南下を続け、牛島司令官自決後も戦いが続きます。わずかな日本兵の中、沖縄の方々の生命は、南部で多大に奪われます。南部は激戦地といわれます。南部戦跡として、現在遺ります。武器を持たない沖縄の方々の逃げ惑う恐怖を想うとき、・・・。激戦地でしょうか・・・。戦跡でしょうか・・・。虐殺地ではなかったのか・・・と。痛いほど怒りを感じます。

日吉司令部では、敗戦の日まで指令が出されたということ。どんな指令を出し続けたのでしょうか・・・。最後の一人まで天皇のために戦えということでしょうか。心に澱みのようなものが残る日吉壕でした。

美しいものを美しいと感じるのも、人間の心です。きな臭いこと、忌まわしい差別を感じ取るのも人間の心です。鏡のような心でありたいと想います。鎌倉時代の有様を記した史書も”吾妻鏡”でした。正確に映してわかる真実もあると思います。過去を正しく知る努力は怠りたくないと思います。この2日間、そんなことを想った平和の旅でした。こんな機会を与えてくださったこと、心から感謝いたします。

完



① 好評 勝沼ワイン販売します
赤、辛口白
ともに1本 1200円
申込みは
11月20日までに各理事に